

フィールドに依存した身体相互行為の組織化過程 — 歯科診療における「修正」のやりとり —

The Organization of Embodied Interaction Dependent on Activities in the Field: “Modification” in Dental Practices

坂井田 瑠衣¹ 榎本 美香² 伝 康晴³ 坊農 真弓⁴

Rui Sakaida¹, Mika Enomoto², Yasuharu Den³ and Mayumi Bono⁴

¹慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科

¹Graduate School of Media and Governance, Keio University

²東京工科大学メディア学部

²School of Media Science, Tokyo University of Technology

³千葉大学文学部

³Faculty of Letters, Chiba University

⁴国立情報学研究所コンテンツ科学研究系

⁴Digital Content and Media Sciences Research Division, National Institute of Informatics

Abstract: In this paper, we describe how the participants organize the “modification” of body movement in dental interaction. Unlike “repair” in conversation, modification in embodied interaction is organized owing to whether each participant has three kinds of competence, i.e., physical competence, cognitive competence, and institutional competence. Four excerpts from dental interactions are analyzed from the viewpoint of who initiates and who performs the modification.

1. 身体相互行為における「修正」

医療や介護、制作などのさまざまなフィールドにおいては、発語を中心的な媒体とする会話相互行為だけでなく、モノの受け渡しや共同作業など、身体動作同士の視覚的あるいは触覚的やりとりによる身体相互行為がしばしば営まれる。例えば医療場面における診療活動においては、個人内あるいは個人間の身体動作が時間的に連鎖することで、身体相互行為が組織される。ある者が産出した何らかの動作やその位置、タイミングが適切でなかったり、動作によどみが生じたりすると、その動作を「修正」するための連鎖が挿入される。この「修正」は、会話相互行為における「修復[1]」に類似した構造を持つが、その過程は診療というフィールドの活動に埋め込まれているため、相互行為としての組織化のやり方が異なる。本稿では、会話相互行為における「修復」との相違点を検討しつつ、歯科診療における身体相互行為の「修正」に特徴的な組織化過程を観察する。

2. 会話の「修復」と動作の「修正」

Schegloffら[1]によれば、会話相互行為においては、話し手において発語の産出上のトラブルが生じた場合や、聞き手において聞き取りや理解のトラブルが生じた場合、それらのトラブル源 (trouble source) がさまざまなやり方で「修復 (repair)」される。Schegloffら[1]は、会話における修復のやり方を、以下の4タイプに分類している。

- 自己開始による自己修復 (self-initiated self-repair): トラブル源の産出者自身が修復を開始し、トラブル源の産出者自身が修復を実行する
- 自己開始による他者修復 (self-initiated other-repair): トラブル源の産出者自身が修復を開始し、トラブル源の産出者以外の他者が修復を実行する
- 他者開始による自己修復 (other-initiated self-repair): トラブル源の産出者以外の他者が修復を開始し、トラブル源の産出者自身が修復を実行する
- 他者開始による他者修復 (other-initiated other-repair): トラブル源の産出者以外の他者が

